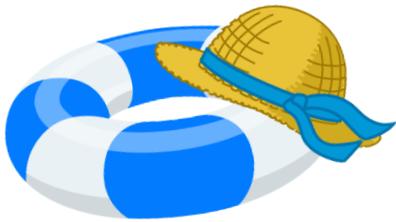


TC 通信

№ 106 2022年7月号

- ◆ティーンズ世代=10代のための読書情報誌です。
- ◆ご紹介する本は特に記載がない限り、図書館3階ティーンズコーナー所蔵です。



ティーンズコーナーに新しく入った本からピックアップ。



『タブレット・チルドレン』

村上 しいこ/作 かわい ちひろ/絵・漫画

さ・え・ら書房 913/サエ/21

一人につき一台タブレットを持つ時代。中学生の藤原心夏のクラスでは、生徒二人がペアとなり、タブレット・チルドレン（AI（人工知能）の子ども）を育てるという課題が出されました。心夏は、ペアとなった不愛想な男子・高橋温斗とともに、タブレット・チルドレンのマミを育てることになります。まだお母さんに反発してしまう子どもの心と、子どもに反発されて戸惑うお母さんの心を同時に味わうことになってしまった心夏。マミはするどい言葉で心夏の心をゆさぶり、家族や友人、クラスメイトとの関係に変化をもたらしていきます。

タブレットの中とはいえ、子育てという少し重めなテーマですが、心夏をはじめとする個性豊かなクラスメイトたちの軽妙な会話が魅力的で、テンポよく読めます。自分の新たな視点に気づくことができる物語です。



極め道

『ギリシャ神話入門』

長尾 剛/著 かんき出版 164.3/キ/12 4階一般

本書は、歴史や思想などをわかりやすい読み物にする作家として定評がある長尾剛氏により、ギリシャ神話の全体像がわかりやすく解説されている。

はじめに「カオス」あり。そして次々に神々が誕生する。神というと、秩序や道徳の象徴と思われるが、ギリシャ神話に登場する神は「道徳なき神」。心のままに従い、欲望を満たすためにパワフルに活動する。まるで人間のようなものである。イラストもたっぷりあり、最後まで楽しく読めるよ。

聖書と並び、西洋世界の文化的・精神的な基盤となっているギリシャ神話。夏休みを利用してその入門書をひもといてみてはどうだろう。

テーマ 海 vs 山

アウトドアが楽しい季節になると、必ずと言っていいほど話題になるのが「海か山か」。どちらにも相手に負けない魅力があり、「きのこかたけのこか」と同じくらいかそれ以上に、決着がつけられない永遠のテーマですよね。

今回は海と山の魅力を存分にお伝えする本をご用意しました。あなたはどっち派？



『山登り語辞典』 鈴木 みき/著 誠文堂新光社 786.1/ヤ/17 3階実用

「双耳峰(二つの山頂が動物の耳のように並んでいる山のこと)」をかわいいイラストで説明していたり、なぜか「恋」や「力士」が見出しの中に載っていたり、あそび心いっぱいの登山用語辞典。山登りには欠かせない道具や用語、隠語だけでなく、山についてのおもしろい言葉や豆知識を、軽快なイラストとともに紹介しています。山の楽しさを伝える映画やコミックスの紹介や、水筒コレクションなどのコラムがあり、ちょっと難しそうな登山のイメージをぐっと引き下げてくれます。山に興味がなくても、読み物としても楽しめる本。読んだら登山を試みたくなるかもしれません。

『海とジイ』 藤岡 陽子/著 小学館 F/フシ/18 4階一般

瀬戸内海の島とジイ(おじいさん)をテーマにした3つの物語。それぞれの生き方を貫こうとする三人のジイの姿と、まわりの人々の心模様が静かに描かれている。

問題を抱えた三人の若者が、ジイたちとそれぞれ触れ合う。最後に登場するジイの「人生は短いぞ、濤二。今日一日を限界まで生きろ」という強い言葉は、長く生き抜いて、老いても凛とした者の言葉だからこそ、若者の心に強く響く。やがて、彼らは…。

読後、人生という荒波を乗り越えて生きていくこと、老いていくことの意味を深く考える機会を得ると同時に勇気づけられるに違いない。

巻末に、舞台となった「瀬戸内 島MAP」が著者の手で描かれている。いつか行ってみたいかなるかもしれないね。



『BLUE』 高砂 淳二/著 小学館 748/フ/05 4階一般

本をめくると目に飛び込んでくる青、青、青。光を受けて輝く海、深海とおぼしき真っ暗な海などいろいろな表情がみとれます。色だけではなく今にも音が聞こえてきそうな波の動きにも注目してほしい。

さらに印象的だったのは、ところどころに入ってくる文章です。

その一つに「人の体液は、海の水とよく似ているらしい。まるで皮膚の中に海を囲って、陸の上で生活しているようなものだろう」というものがあります。昔から言われている生物たちが海から来たという説とリンクするような感じがしてちょっとドキドキしてしまいます。その他にもすてきな文章が登場するので、写真と合わせてそちらもチェックしてみてください。



『山はしっている』 リビー・ウォルデン/作 リチャード・ジョーンズ/絵

横山 和江/訳 鈴木出版 E/スス/20-24×30 3階児童

私は山の空気という^{たたく}付まいが好きで、年に何回か“山歩き”に出かけます。立ち止まって深呼吸をすると、木々の香りがして鳥のさえずりも聞こえます。至福のひとつです。

そんな私が今回ご紹介する絵本には、シロイワヤギ、ナキウサギ、キツネなど実にさまざまな動物が出てきます。そのすべての動物たちの表情がとっても優しいんです。そして静かな語り口、優しいイラストから山の静寂が感じられます。ゆったりと時間が流れているようです。

後ろの見開きには、登場する生き物の名前すべてがのっています。ここでも新しい発見があるかも……。山の魅力が存分に感じられる1冊です！



ボランティアさんのオススメ本 (アリスの会)



『博物館の少女』 富安 陽子/著 偕成社 913/カイ/21

今、私たちが当たり前と思っていることの始まりを知るのは、なんと面白いことでしょう。文明開化によってもたらされた「博物館」もそうでした。

両親を失い、大阪から東京にやってきた少女イカルは、持ち前の目利きの能力を買われて、博物館の倉庫で働くことになります。そこで、所蔵リストの違いが発覚します。ここからは、ミステリー、町に繰り出して謎解きです。

明治という時代背景とミステリーを融合させて、遠くない歴史を感じさせてくれます。

図書館員 K の本棚

いわゆる“映えるスイーツ”みなさんはお好きですか？

私は写真を撮らずに即食べ派ですが、大好きです。頑張ったときのご褒美はもちろん、落ち込んだときにも食べたくなりますよね。本に載っているものを見ているだけでもテンションが上がります☆

そこで今回の本棚は、見ているだけでも楽しめるちゃつスイーツの本をご紹介します。レシピ本なので気になった方はぜひ作ってみてください☆

(洋酒入りのレシピもありますのでご注意ください。)

『鉱物のお菓子 夏』

マコト かよこ/著

玄光社

596.6/コ/20 3階実用



『はじめまして

韓国カフェスイーツ』

福本 美樹/著

家の光協会

596.6/ハ/21 3階実用

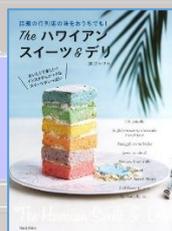


『Theハワイアンスイーツ&デリ』

藤沢 セリカ/著

河出書房新社

596.6/サ/18 3階実用

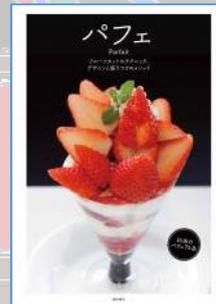


『パフェ』

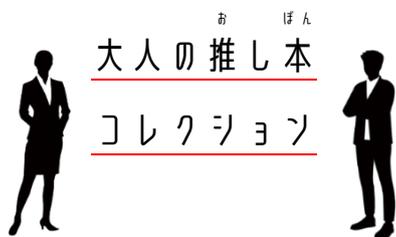
柴田書店/編

柴田書店

596.6/ハ/20 3階実用



大人の お 押しコレ



お ぼん
大人の押し本
コレクション

『俺たちの行進曲』

有明 夏夫/著 文芸春秋 F/A/L 閉架一般

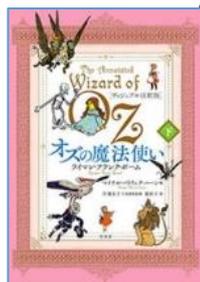


皆さんのおじいさん、おばあさんが、皆さんと同じ位の年頃だった時代を描いた小説です。

3人の音楽部の男子高校生を中心に、部活、遊び、恋をとおして、当時の高校生の学校生活や日常の様子が、おもしろおかしく、ときには暑苦しいくらいの勢いで描かれており、スマホやタブレットなどの便利なツールが何もない時代、五感と直感に頼って何かやっているとする主人公たちの思いが伝わってくるようです。

各章のタイトルをはじめ随所^{すいしょ}にちりばめられた音楽のエッセンスも楽しめる小説です。

名作 たからばこ



『オズの魔法使い ヴィジュアル注釈版 上・下』

ライマン・フランク・ボーム/著 マイケル・パトリック・ハーン/編
川端 有子/日本語版監修 龍 和子/訳 原書房 933.7/オ/20-1・2

『オズの魔法使い』といえば、言わずと知れた世界中で愛されているお話ですよね。今回ご紹介する本は“ヴィジュアル注釈版”ということで、ちょっと珍しいのですが文字通り注釈に重きが置かれています。

作者のボームは、当時としては新しいおとぎ話を創作することを目指し、ヨーロッパの昔話にある教訓性や残忍な場面は排除し、明るく楽しめる子どもたちのための物語を書いたそうです。そんなボームの生い立ちから作品がどのように世界中で愛されるようになったかまで、『オズの魔法使い』を深く理解できるようになっています。

初版の本の装丁や当時のポスター、オリジナルの挿絵なども多数掲載されていてとても興味深いです。もちろんていねいに訳された原作も掲載されているので、それを読むだけでも楽しいですよ！

ティーンズコーナーで待っています！

ティーンズコーナーは、中高生（ティーンズ）世代向けに、さまざまなジャンルの本を集めたコーナーです。図書館3階の北側自動ドアから入り、まっすぐ進んだ先の左側の本棚にあります。看板が目印！

悩み解決のヒントになる本、知識を深める本、趣味を広げる本など、児童書よりもステップアップした内容のものや、10代の皆さんにおすすめの読み物を用意しています。

「〇〇について調べたい！」
「△△の本はどこ？」など、
本に関する相談や探し物は
職員に気軽に聞いてみてね。



発行：春日井市図書館

愛知県春日井市鳥居松町 5-44 TEL(0568)85-6800

<http://www.kasugai-lib.jp/>

※表紙画像の掲載にあたっては出版社から許諾を得ています。